

大学図書館の現状と課題

平成20年11月10日

東京大学附属図書館  
星野 雅英

はじめに

図書館にずっと勤める方へ  
図書館に一時的に異動してきた方へ

1. 課題は多い

課題はどの職場にもある。その課題を解決するために専任の職員がいる。

図書館の仕事のために、図書職員が要るのであって、  
図書職員のために、図書館の仕事があるわけではない。

- 1) 日常的な課題をどのように解決していきますか。
- 2) 働いている図書館をどのように把握していますか。
- 3) アウトソーシング、図書館業務のシステム化、書店等のサービスが進めば、  
担当する仕事や業務の内容や方法が、激減するかも知れない。  
  
図書館の仕事は一人ではできない。  
図書館という組織も、コミュニケーションがなければ成立しない。
- 4) 同僚から相談を受けた時に
- 5) 係長から同意を求められた時に
- 6) 新しい本のない図書館に存在価値はあるか

2. 大学図書館関係の政策

大学図書館の過去を知れば、未来が見えてくる。

1) 文部(科学)省と大学図書館の政策 1

1. 国立大学図書館改善要項及びその解説	S 2 7 . 1 1	国立大学図書館 改善研究委員会
2. 大学図書館の整備、拡充について(勧告)	S 2 8 . 1	文部省大学学術局
3. 大学における図書館の近代化について(勧告)	S 3 6 . 5	日本学術会議
4. 大学図書館施設計画要項	S 4 1	文部省管理局 教育施設部
5. 学術情報の流通体制の改善について	S 4 8 . 7	文部省学術審議会 学術情報分科会
6. 今後における学術情報システムの 在り方について(答申)	S 5 5 . 1	文部省学術審議会

「調査」は研究である。簡単に、図書職員にレファレンスを委ねることはしない。  
例えば、「この報告書をインターネットを使わず集める」ことが簡単にできますか。

2) 国立大学図書館関係のトピックス1

S 3 7 -	特別図書購入費の予算措置
S 4 0 -	複写装置設備費
S 4 6 -	電子計算機購入経費
S 5 2 -	外国雑誌センター館の指定、外国雑誌購入費
( S 5 5 . 1	文部省学術審議会)
S 5 8 -	文献情報センター設置 N A C S I S - C A T開始
S 6 1 -	学術情報センターに改組 N A C S I S - I R開始
H 4 -	N A C S I S - I L L開始

3) 文部(科学)省と大学図書館の政策2

1. 大学図書館機能の強化・高度化の推進について(報告) H 5 . 1 2	文部省学術審議会・学術情報部会
2. 大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について(建議) H 8 . 7	文部省学術審議会
3. 学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ) H 1 4 . 3	文部省学術審議会・デジタル研究情報基盤WG
4. 学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について(報告書) H 1 5 . 3	文部科学省研究振興局情報課
5. 学術情報基盤の今後の在り方について(報告) H 1 8 . 3	文部省学術審議会・学術情報基盤作業部会

4) 国立大学図書館関係のトピックス2

H 7 -	図書館高度化経費 奈良先端大学院大学、学術情報センターN A C S I S - E L S
H 9 -	電子図書館化経費 筑波、京都、東京工業、神戸(、図書館情報)
H 1 2	国立10大学に電子図書館関係経費
H 1 2	学術情報センターの国立情報学研究所へ改組
H 1 7	国立情報学研究所機関リポジトリ助成

5) 公私立大学・短大の改善要項等

1. 公立大学図書館改善要項	S 3 6	公立大学図書館協議会
2. 私立大学図書館改善要項	S 3 1	私立大学図書館協会
3. 公立短期大学図書館改善要項	S 5 3	公立短期大学図書館協議会
4. 私立短期大学図書館改善要項	1 9 8 9年版	日本私立短期大学協会



- 2) 将来は、きっと評価や公募が本格化
- ・年功序列から実績評価への流れ  
「できる人」、「がんばる人」を優先する人事へ
  - ・「何となく」の世界では通用しなくなってきた。  
自らの目標を明示する必要がある。
  - ・学内外での公募制・推薦制の採用へ  
いざとなれば、何処に行っても通用する実力を！！
- 3) 図書館周りの変化 - 今、図書館は転換期にある (一例)
- システムの限界が、図書館サービスの限界。
- a) 電子ジャーナルの普及 / 雑誌購入の減少
- ・ILLの減少 = 職員の業務減 職員の削減?
  - ・電子ジャーナルの高騰化 = 雑誌・電子ジャーナル予算確保が限界  
他大学に、ILLで提供できなくなるかも知れない。
- b) 図書館システムとサービス、NACISIS - CAT / ILL
- 図書館職員のための図書館システムを、利用者に使わせているに過ぎない。
- ・NACISIS - CAT / ILL、図書館システムの成功  
返って、次の展開が難しい。
  - ・利用者に向けたサービスの提案 (一例)  
現在: CAT OPAC ILL 貸出・複写  
提案: (CAT OPAC) 貸出・予約・複写  
\* 他大学から利用者が直接アクセス・依頼できるもの
6. 図書館を担う覚悟がありますか
- 図書館を、仕事を、担う覚悟がなければ、成長しない。
- 1) 採用時は、図書館に関する基本的知識があればよい。
- ・採用後に、図書館と、主題分野の専門知識を徐々に身につけていく。
- 2) 図書館に関する知識、コミュニケーション能力は当然
- コミュニケーションが苦手という前に、与えられた仕事をこなす
- 3) 将来、特定分野の選書やレファレンスができる程度の知識を
- 企画と提案できなければ、実践ができなければ、決断ができなければ、力はつかない。

まとめ - 図書館を担うために

自分の図書館のことは、その図書館の職員が考え、全員で図書館の運営を担うしかない。

図書館から他に異動した後は、きっと図書館を支援する /  
図書館を創る政策に携わりたくなるはずである。